

# 多湖研究室を志望する皆様へ

多湖研究室で学びたいと考える方に、研究室の方針をお伝えするために用意されたメモです。

## 国際的な知的生産市場に貢献する人を育てるのが（唯一の）目標です。

多湖は英語で国際政治学の知見を発表し、国際的な知的生産市場に対して貢献することを最大の存在意義と考えて活動しております。日本語で書くものは教科書または英語で出された研究をまとめてわかりやすく解説するものとなります。

こういった研究者ですので、英語は必須です（ただ、最初からはできないので、「やる気」が大事です）。研究論文を英語で読み、アカデミックライティングの勉強をし、TED talk（w/英文字幕：[例](#)）でリスニング力を上げましょう。「対話」手段としての英語力をつけてほしいです。

## 科学的手法（scientific approach）は必須です。

多湖はミシガン大学政治学部で研究員として、J.D. Singer 先生（科学的な国際関係論研究の先駆けのおひとり）に2年間教えていただき、科学的な研究手法を日本に広めることを使命とするように教育されました。数理（ゲーム理論）は専門外ゆえに無理ですが、計量手法（観察）および実験手法は専門です。それらを使って国際政治現象を考えたい方には多湖研究室は適切な場です。なお、計量手法については、浅野・矢内 2013『Stataによる計量政治学』（オーム社）で基礎をおさえてください。自習用のデータやソース・コードが、<http://yukiyanai.github.io/jp/quant-methods-stata/>にあります（Rで学習できます⇒矢内先生に心から感謝をしましょう）。実験は、加藤・境家・山本 2014『政治学の方法』（有斐閣）の5章「実験の方法」から始め、多湖の論文を読んでください。と書きましたが、いまは Imai (2017) *Quantitative Social Science: An Introduction* Princeton University Press 一冊で OK です。

## はじめは追試（再分析・再実験）しましょう。

先行研究の追試は科学的手法を行うにあたって最初の大事な過程です。あなたのやりたいテーマに関する科学的研究のデータを政治学系のトップ誌（APSR, AJPS, JOP）のほか、国際関係論の IO や ISQ、紛争研究の JCR や JPR といった雑誌で見つけ、R で（実験の場合にはクアルトリックスを組んで）追試してみてください。その際、元データの記述統計をプロットし、じっくりながめて、著者さえも見落としているデータ上の論点を見出せると最高だと思います（なぜなら、そこから新しい研究が生まれうる）。ただ、著者も審査過程で厳しいコメントを得てきたうえで論文を発表していますから、簡単には「見落とし」はしないです。最初は「発見」が自分の間違いによるのでは？と疑ってください。

## 研究者は自分の興味関心（だけ）で研究するではありません。

研究者は自分だけの興味関心で研究するものではありません。研究の資金を受けるために、社会にとって何が必要な知で、どういったテーマ設定であれば社会から支援を得られるのかを考える必要があります。研究が仕事である以上、それは「趣味」ではないのです。

## 「一人でこもる人」は遠慮いただくのが良いです。また、「当然に推薦され」ません。

政治学でも「共著論文」が基本になりつつあります。また、単著の作品でも、他者に「おもしろい」と言われねばならず、自分だけでこもる、自己満足的研究は多湖研究室には不適合です。コミュニケーション能力・社交性は研究者人生に欠かせないです。また、よくある誤解ですが、ゼミに所属したといった関係で推薦状を依頼されますが、基本的に推薦できない人の場合はお断りします。推薦状とは、先生から推薦したいと思う人について書かれる書面です。日々の研鑽をしっかり観察しますので、その限りで推薦されるということをしっかり理解ください。